

沖縄県知事選

佐喜真を巡る2つの疑惑
黒歴史抹消と外務省アシスト



ウツつき

大激戦が伝えられる沖縄県知事選で、与党推薦候補の佐喜真淳前宜野湾市長(54)に経歴「詐称」の疑惑が浮上している。

安倍政権と気脈を通じるウルトラ右翼「日本会議」のメンバーだった過去をヒタ隠ししているからだ。佐喜真は日本会議との関わりについて、「私は日本

躍起になっているのだろうが、果たして公職選挙法で禁じられた「虚偽事項の公表罪」に該当しないのか。総務省によると、「同罪の成立には、公表者が虚偽を認識していることが必要」(選挙課)と説明する。沖縄で取材中のジャーナリスト、横田一氏がこう言う。

「佐喜真さんは宜野湾市長のとき、日本会議の主張に関する署名活動をしていました。佐喜真陣営の選対会議は、日本会議とつながりの強い『沖縄県神社庁』の地下会議室で行われているようです。佐喜真さんが経歴を隠しているのは、日本

翁長知事をはるかに超える好待遇のワケ

会議と相いれない公明や創価学会の集票活動が鈍るのを恐れていることでしょう。都合の悪いことは隠す、ウソをつくのが当たり前の安倍政権の政治手法をマネしているのだろう。問題なのは、そんな佐喜真を外務省がコソコソと裏で支援している疑いがあることだ。

今年5月、佐喜真は沖縄の米軍基地負担軽減を訴えるため訪米し、米政府関係者と面会。相手は国防次官補や太平洋海兵隊司令官らで、その2カ月前に訪米した翁長雄志前沖縄県知事の面会相手と比べて破格の扱

ிட்டったという。一連の経緯に詳しい国民民主党の藤田幸久副幹事長はこう指摘した。

「外務省の在外公館の定めによると、政府関係者が外国を訪れる際、都道府県知事は皇族や総理に次ぐ扱いを受ける。市長はさらにランクが下がります。しかし、佐喜真氏は出馬が取り沙汰されている中、米国で、翁長知事よりも厚遇されていた。通常ならば会えないような相手に会えたのは、辺野古への基地移設を強弁する政府や官邸の意向があったからではないか。だとすれば、結果として、沖縄県知事選に政府と官邸が介入したことになります」

要するに、外務省は知事候補と取り沙汰されていた佐喜真のVIP待遇をお膳立てしていたワケだ。まったく、ウツつき安倍政権がバックについた候補者に口クナ人物はいない。